

**\* 天文機器資料館に展示の口径26cmのレンズにGRUBBの名盤があった**

観測が終了し天文機器資料館として有効利用されている旧自動光電子午環棟に持ち込み展示してある口径26cmの比較的大きなレンズ(写真1)がある。このレンズの来歴、由来が定かでない。がっしりとした架台を兼ねたレンズホルダーに入っている。基線尺倉庫から持ち出し天文機器資料館に展示したが製作者もわからず、どの観測装置に使われたものかも知れなかった。今回、名盤のようなものはないかとレンズの枠を指でなでていたら果して出てきたではないか! 製作会社名がわかったのである。



写真1 口径26cmのレンズ

このレンズは架台が非常にごついもので重いものである。レンズ枠に出てきた名盤には「SIR H GRUBB & SONS LTD. ST ALBANS. ENGLAND. No. 4922」(写真2)とある。われわれに馴染みのGRUBB & PARSONSではない。GRUBB & PARSONSになる前のGRUBBとその息子たちでやっていた頃の作品と思われる。筆者が現在までに調べた範囲ではGRUBB製の口径26cmのレンズに相当する記述は何一つ見つかってはいない。今までも器械の架台部分を撫でていて製作会社の名前が浮き出てきり、レンズの枠を撫でていてレンズの作者がわかったこ

とがある記事を何度か書いた。今回もその感動がある。このレンズは相当に古いものである。



写真2 指で撫でていたら出てきた製作者の名盤

こういった古いものについて尋ねることのできる人たちはすでに多くの人が鬼籍に入った。特に筆者と親しかった清水実氏、富田弘一郎氏がいないのが残念である。塔望遠鏡については末元先生が御存命であればずいぶん分かるのだが残念である。

この名盤を頼りに、このレンズについて調べてみようと思う、読者の中で何かお気づきのことがあれば知らせていただけるとありがたい。

筆者のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)である。